



～地域に暮らす見えにくさのあるお子さんとの関わり～

乳幼児教育相談では、0歳児からの相談を受けつけています。そのため、遠方だったりお子さんをまだあまり外に連れて歩けなかったりする場合は、こちらから訪問させていただくことがあります。その際は在籍されている保育所であったり、近隣の保健センターの一室を借りたりするなどします。保健センターを借りる場合は、担当の保健師さんから乳幼児相談担当にご連絡をいただき、お部屋や遊具などを準備していただいています。なお、相談は交通費なども含めてもちろんすべて無料です。

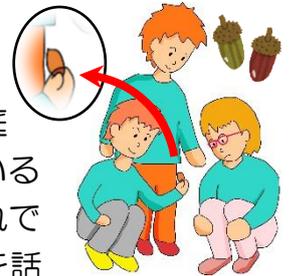
お子さんがまだ幼くて視力検査がはっきりできる年齢でない場合、保護者は「どのくらい見えているの?」とか、「早いうちから何かしておかないといけないの?」などの不安がいっぱい。そこで、お子さんの見え方に関して、少しでも不安を取り除いたり、関わり方の工夫をお伝えできたりすればと考え、訪問を行っています。

<こんな相談をしています>

★ 幼稚園でのお子さんの様子を見学して、先生方と話し合いをしました

本校に乳幼児教育相談でお越しになった保護者さんから、幼稚園での過ごし方が心配というご相談を受け、幼稚園を訪問してお子さんの様子を実際に見学させていただくことになりました。保護者さんから担任の先生に訪問の旨をお伝えいただき、こちらから園の担任の先生にご連絡して伺いました。

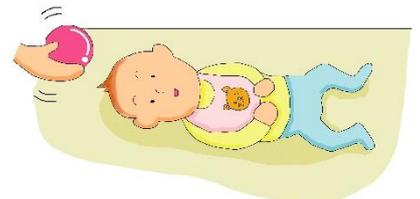
幼稚園では年中・年長になるにつれ集団での活動が増えていきます。先生がお話するときにはちゃんと見えやすいところに座っているか、お友達と園庭で遊んでいるときに、遊具で遊んでいる様子や砂遊びなどの場面で、困っている様子がないかなと見たり、また先生方が普段から気をつけていることや、これでいいのかな?といった指導をするときの疑問や不安に感じていることなどを話し合ったりしました。



★ 保健センターで赤ちゃんの育ちを共有しました

保健師さんからご連絡をいただいたケースです。生後まだ数か月で遠方でもあったので、こちらから伺うことになりました。保健センターの一室をお借りして、保護者さんと赤ちゃんに会いました。場合によってはスヤスヤ眠っていることもあるので、そのようなときは保護者さんにお話を伺いながら、遊具の紹介やその使い方などをご紹介したりします。

赤ちゃんのご機嫌がいいときには、目でおもちゃを追いかけるかな、とか、ピカピカ光るおもちゃに手を伸ばすかな、などを確認しながら一緒に遊びます。保護者さんや保健師さんにもその様子を見てもらい、これからの接し方の参考にしていただきます。



見えにくさに対する支援は途切れなく行っていくことが重要です。幼稚園・小中学校・高等学校と進学しても、それぞれの在籍先に対しても切れ目なく支援を行っています。気になることがありましたら、ぜひお気軽にご連絡いただければ幸いです。